

色麻町の 地域計画実現に向けた 担い手の経営発展

（「園芸振興」、「地域計画」関連課題）



課題期間：令和7年度～令和8年度（2か年）

担当者一員 小池修、大川茂範、尾上智子、
小松知子、佐々木圭悦、◎大津琴乃



1. 課題の背景及び対象と現状

○背景

☆色麻町地域計画☆

町内24行政区単位での協議の末、町1計画で策定

地区内の集落営農法人、集落営農組織などの担い手への農地集積目標 ⇒ **90%**

しかし、、、

- ・ 高齢化によるリタイアの増加
- ・ 受け手となる経営体の労力の限界後継者不足

などの問題を抱えている

○対象

- 農事組合法人下高城ふああむ⇒更なる規模拡大に向け、生産基盤の強化が課題
- 清水集落営農組合 ⇒R7年中の法人設立を目指す
- (波及効果) 既存の色麻町内土地利用型農業法人 10法人

2. R7年度の目標

○定性的目標

【（農）下高城ふああむ】

- 乾田直播栽培技術が習得され、より効率的な経営にむけた意識が高まる

【清水集落営農組合】

- 法人が設立され、高収益作物の試作が円滑に行われる

○定量的数値目標

法人における新規取組数
(R6) 0 ⇒ (R7) 3 ⇒ (R8) 5

	年次	新規取組内容	備考
1	R 7	乾田直播栽培の導入	(農) 下高城ふああむ
2	R 7	法人設立	清水集落営農組合
3	R 7	高収益作物栽培の導入	清水集落営農組合
4	R 8	経営計画の策定	(農) 下高城ふああむ
5	R 8	営農管理システム導入の検討	(農) 下高城ふああむ

3. 活動内容

活動項目	対象	活動内容	活動時期														
			7年度									8年度					
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3			
① 乾田直播栽培の導入支援	(農) 下高城ふああむ	① 調査ほ場の設置	↑		↑		↑										
		② 生産者への技術指導	←	→													
		③ 現地検討会の開催	↑														
		④ 移植栽培の労働力比較	←	→													
		⑤ 成績検討会の開催														↑	
② 法人設立及び高収益作物栽培導入支援	清水集落営農組合 ⇒(農)きよみず	【法人化】															
		① 事業目論見書・定款の作成支援	←	→													
		② 法人化へのスケジュール管理															
		③ 事例の収集等															
		④ 先進事例視察研修															
③ 町内の法人間の交流促進支援	既存の色麻町内 土地利用型農業法人 10法人	【高収益作物】															
		① 栽培技術の指導	←	→													
		② 成績まとめ															

4. 活動内容 ～乾田直播栽培の導入支援～（農）下高城ふぁあむ

（1）生育調査ほ場の設置

生育調査ほ場を設置し、計5回生育調査を実施

実施日：6/10、6/20、7/1、7/10、7/20

調査項目：草丈、莖数、葉色

（2）調査結果に基づく技術指導

生育調査結果をまとめ、対象や関係機関等に対し、技術指導を実施



対象への技術指導



8/21 収穫前現地検討会

（3）現地検討会の開催

色麻町、JA、全農等と協力し、現地検討会を計3回実施
新規導入を検討する生産者や、JA等の関係者を参集

4/22 播種作業に関する検討会

6/3 雑草管理に関する検討会

8/21 収穫前現地検討会

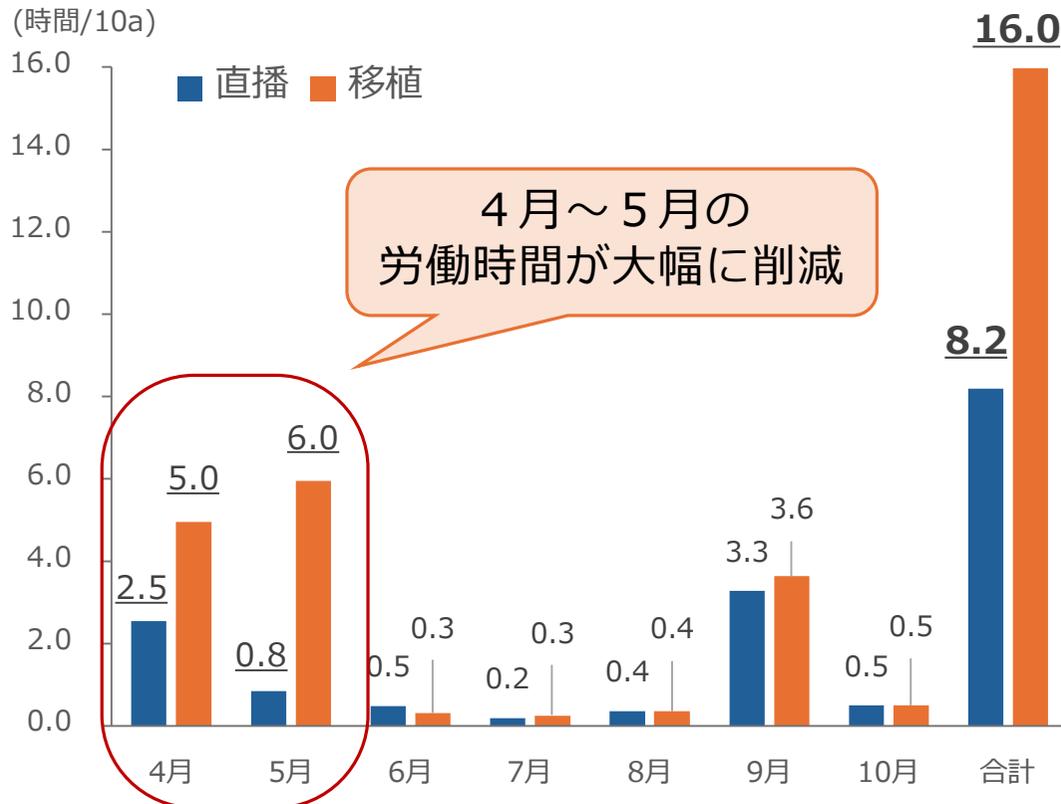


4/22 播種実演会の様子

4. 活動内容 ～乾田直播栽培の導入支援～（農）下高城ふぁあむ

（４）移植栽培との労働時間の比較

対象の作業日誌をもとに、移植栽培と乾田直播栽培の労働時間について、比較調査を実施



（５）乾田直播栽培成績検討会の開催

色麻町や関係機関と協力し開催
町内外生産者や関係者が約70人参加
意見交換会や来期作付意向調査を実施

⇒さらに作付が拡大する見込み

色麻町での乾田直播取組面積

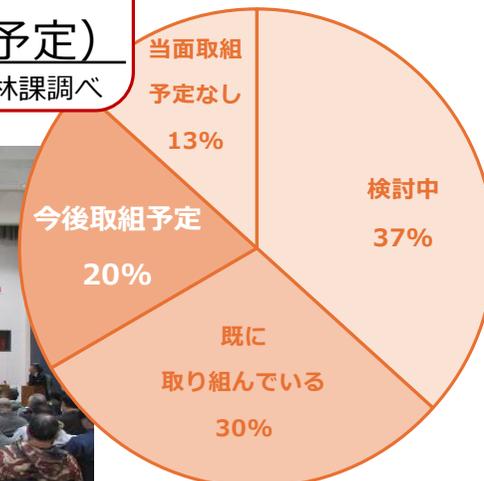
R7年:27.4ha

→ R8年:約47ha (予定)

色麻町農林課調べ



検討会での実証ほ場成績報告の様子



1/20実施意向調査結果より
回答者 33名

4. 活動内容 ～法人設立支援～ 清水集落営農組合

(1) 法人化に向けて多面的にサポート

- ・ 関係機関と密に連携し、法人形態の検討や事業計画書の作成等、法人化を支援
- ・ ほ場整備や機構集積協力金の申請が円滑に進むよう、進捗管理について助言

(2) 先進事例現地視察及び意見交換

- ・ 経営向上を図るため、先進的経営体での視察研修会を開催
- ・ 『おおぬき彩土里ファーム』（大崎市田尻）を視察
（R6ライスセンター取得、従事分量配当制）
- ・ 意見交換会では、従事分量配当制の導入や補助事業の活用についてなど、活発な情報共有が行われた



4. 活動内容 ～高収益作物導入支援～ 清水集落営農組合

(1) 栽培技術の指導

高収益作物の試作として、さつまいもの栽培を開始（10a）
マルチがけや定植の際に普及職員も参加し、苗の定植方法等の技術支援を行った

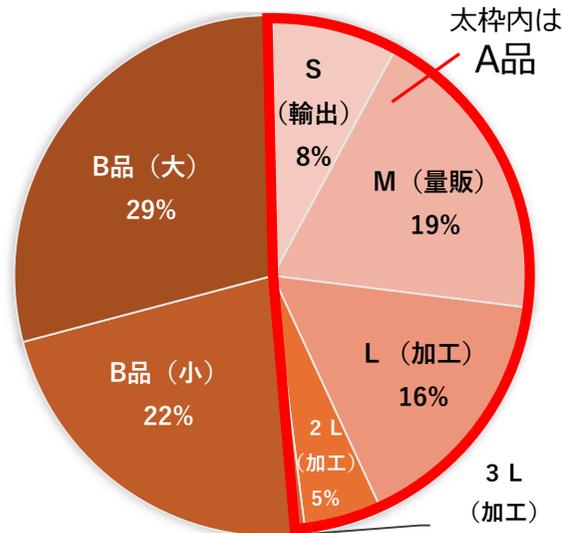


(2) 栽培成績のまとめ

- 植付本数：2,970本（あまはずき270本、紅はるか2,700本）
- 作業：定植 5/30 6/1 6/3
収穫 10/25
- 収量：2,054.1kg

【課題】

- ✓ 虫害により、B品が多発
- ✓ 夏場の高温少雨の影響で、一部ほ場が枯死する等の被害あり
- ✓ イノシシによる食害が発生し、獣害対策にもコストがかかった



出荷規格別の割合（2品種合計）



5. 目標の達成状況

【(農) 下高城ふああむ】

目標：乾田直播栽培技術が習得され、より効率的な経営に向けた意識が高まる

普及センター実証ほ場 **770kg/10a**

収量目標 700kg/10aを達成、飼料用米での乾田直播栽培技術の習得ができた

【清水集落営農組合 ⇒ (農) きよみず】

目標：法人が設立され、高収益作物の試作が円滑に行われる

[法人化]

9/8 創立総会、9/17 登記 **“法人設立”**

(農) きよみずとして、地域計画の担い手に
位置づけられ、法人への農地集積が進んだ

[高収益作物]

収穫量の約半分が、単価の低いB品出荷となった
作業体系の習得はある程度達成できたものの、
虫害対策等の**さらなる技術向上が必要**

○定量的数値目標

法人における新規取組数

(R6) 0 ⇒ (R7) 3 ⇒ (R8) 5

数値目標は達成

	内容	対象
取組 1	乾田直播栽培の導入	(農) 下高城ふああむ
取組 2	法人設立	清水集落営農組合 ⇒ (農) きよみず
取組 3	高収益栽培導入	清水集落営農組合 ⇒ (農) きよみず

6. 令和8年度の活動

【(農) 下高城ふああむ】

- 乾田直播栽培の技術指導

⇒来年度、乾田直播栽培を大幅に拡大する計画
主食用米での乾田直播栽培など更なる技術習得に向けて支援を行う

- 営農管理システムの導入の提案

⇒営農管理システムを導入し、より省力的・効率的な経営ができるよう支援する

- 乾田直播栽培を入れた、将来ビジョン作成支援

⇒営農管理システムのデータを活用し、面積の拡大や労働力の確保計画などより具体的に法人経営の将来像を検討できるよう支援する



【(農) きよみず】

- 法人設立後の経営力向上支援

⇒ 将来的な機械導入・設備投資計画、従事分量配当制の導入など、
研修会の開催や専門家派遣等を活用しながら、具体的な経営ビジョンの作成を支援する

- 高収益作物の栽培技術の習得支援

⇒ さつまいもの試作栽培での課題解決に向けて、虫害対策の徹底や夏季の高温対策など
栽培技術の習得を支援する





ありがとうございました



(年度様式2) プロジェクト課題計画 (案)

課題No. 2	
課題名 色麻町の地域計画実現に向けた担い手の経営発展 (「地域計画」、「園芸振興」、「スマート農業」関連課題)	
計画期間	令和7年度～令和8年度
対象名及び対象者数	農事組合法人下高城ふぁあむ、農事組合法人きよみず (色麻町内土地利用型農業法人10法人)
課題の背景	<ul style="list-style-type: none"> 色麻町の地域計画は、町内24地区単位の協議の結果を踏まえ、町1本の計画であり、地域内の農業を担う者として、地区内の集落営農法人や集落営農組織が位置付けられ、その担い手への農地集積90%を目標としている。 町内では、高齢化によりリタイアする経営体が増える一方で、受け手となる経営体も労力の限界や後継者がいない等、規模拡大が難しい状況になっている。町の地域計画の実現に向けては、担い手となる農業法人や集落営農組合の持続的な経営発展を図る必要がある。 町内の集落営農法人で唯一規模拡大の余力がある農事組合法人下高城ふぁあむは、今後、周辺のリタイア農家の農地を集積することが見込まれるが、規模拡大には水稻の育苗作業の労力が限界となっているほか、ほ場管理方法は紙面による報告を集計する方法であり時間や手間を要している。このため、当該法人では、省力化技術として令和7年度から乾田直播栽培を導入予定であり、その技術習得が必要となっている。また、当該法人は地域をけん引している法人であり更なる発展のために効率的な経営の実践に向けて営農管理システムの導入の検討のほか、規模拡大に対応するための経営戦略や後継者の育成など、中長期的な経営計画を練る必要がある。 清水地区では、農地整備事業 (月崎・清水地区、R4～R11) の工事が進んでおり、担い手として清水集落営農組合が法人化し、農地集積を図る計画となっている。令和6年度には発起人会を立ち上げ、令和7年秋には法人設立を予定している。このため、法人設立への支援のほか、効率的な生産体制の確立や高収益作物導入など設立後の法人の経営安定への支援も必要となっている。 町では、地域計画策定の過程において、今後地区単位で担い手確保が難しい場合、地区を超え広域で活動ができるように担い手同士の情報共有や連携が必要であることが明らかとなり、雇用人材の活用等法人経営のレベルアップに向けて、法人間の情報交換の場づくりを進める予定である。また、担い手不足対策として、乾田直播技術等の省力化技術の導入を解決策の一つと考えており、令和6年度には認定農業者を対象に研修会を開催し、将来的には普及に向けた支援を検討している。 (前年度までの実施状況と今後の改善方向※継続課題の2年目以降に記載) 下高城ふぁあむでは初めて飼料用米の乾田直播栽培に取り組み、目標収量と作業労働時間の削減を達成することができた。令和8年度は面積を拡大し、主食用米でも乾田直播栽培に取り組み予定であるため、継続した技術支援を行うとともに、従来からの課題であるほ場管理方法の改善を図る。 清水集落営農組合の法人化支援を行った結果、令和7年9月に「農事組合法人きよみず」が設立され、地域計画の担い手に位置づけられた。また、高収益作物 (さつまいも) 栽培への取組が開始された。今後は円滑な組織運営や経営の発展に向け、従事分量配当の在り方や機械設備の集約、高収益作物栽培の定着などの検討を行っていく必要がある。
活動の概要	<ul style="list-style-type: none"> (農) 下高城ふぁあむに対して、主食用米での乾田直播栽培の技術支援を行い、営農管理システムの導入に向けて入力やデータ整理の支援を行う。さらに営農管理システムのデータを活用した将来ビジョンの策定を支援する。 (農) きよみずでは、高収益作物の技術習得支援を行うとともに、法人運営について、研修会や専門家派遣を通して、知識習得や経営力向上を図る。
計画完了時に期待される対象の変化	<ul style="list-style-type: none"> 省力化技術の導入により規模拡大が可能となるとともに、経営発展を目指した経営計画が策定される。 法人設立により農地集積が図られるとともに高収益作物栽培が定着する。
担当チーム員	◎大津、小池、尾上、小林、大川、佐々木 進行管理責任者 尾上智子
令和8年度	
成果指標	定性的目標 <ul style="list-style-type: none"> 省力化技術の導入により規模拡大が可能となるとともに、経営発展を目指した経営計画が策定される。 法人設立により農地集積が図られるとともに高収益作物栽培が定着する。
	定量的数値目標 法人における新規取組数 (R6)0 → (R7)3 (実績) → (R8)5
活動指標	定量的数値指標 (合計総現地活動日数 106日)
	活動事項 ① 乾田直播栽培技術定着及び営農管理システムを活用した将来ビジョン策定支援 (60日) ② 高収益作物栽培導入支援及び法人運営支援 (46日)
関係機関の主な役割分担項目 色麻町農林課 (地域計画策定、担い手育成支援、補助事業)、JA加美よつば (法人化支援、栽培技術・出荷指導)、全農みやぎ (乾田直播試験展示圃事業)、農研機構東北農業研究センター (栽培技術指導)、色麻土地改良区 (農地整備事業推進)、北部地方振興事務所農業・農村整備部 (圃場整備事業推進)、宮城県農業経営・就農支援センター (専門家派遣)	
関連事業名と役割 農業競争力強化農地整備事業 (農地整備)	
県実施方針上の関連項目	1- (1) 先進的経営体や地域の核となる経営体の育成及び経営の安定化・高度化支援 1- (3) 先端技術等の推進・普及による農業経営の効率化・省力化支援 1- (6) 収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援
地域基本方針上の関連項目	

課題No. 4

若手農業者の経営発展に向けた 水稲乾田直播栽培技術の定着

令和7年度～令和8年度



対象：東部師山営農組合 **大友氏**、(株)三本木グリーンサービス **渋谷氏**
波及先：水稲**乾田直播**の導入・取組拡大を**志向する担い手経営体**
担当チーム員：◎大川茂範、宮本晴恵、小池修、佐々木圭悦、
門脇正好、羽場蓮

背景

- 管内の大豆輪作体系の中で水稲乾田直播栽培の取組が拡大
R4：17ha → R5：36ha → R6：86ha → R7：199ha
※20～40代の若手による取組が目立つ
- 東部師山営農組合 大友氏
 - ・肉牛の一貫個人経営＋営農組合の中心オペレーター
 - 現状：子実用とうもろこし→小麦→大豆→水稲乾田直播の水田輪作、
移植水稲、牧草の作業を一手に担う
 - 課題：乾田直播の肥培管理全般の技術向上
部門間競合の少ない作業計画、効率的労務管理
- (株)三本木グリーンサービス 役員 渋谷氏
 - ・法人代表父の補佐＋同年代従業員3名と大豆・水稲作業に従事
 - 現状：大豆後作は耐倒伏性品種「萌えみのり」の乾田直播
 - 課題：大豆後作での主食用米「ササニシキ」の乾田直播技術の習得
年間各作業の勘所理解、業務管理能力の向上

活動内容

- 1 水稻乾田直播栽培の実証ほ運営と技術指導
データに基づく栽培管理指導 ⇒ 着実な技術定着・向上
- 2 営農管理システムの活用支援
栽培状況・管理作業の見える化
⇒ 現況把握・分析に基づく課題の抽出
- 3 技術交流支援
展示ほ調査に基づく情報発信、検討会・研修会での技術交流
⇒ 乾直導入・取組拡大を志向する担い手への
栽培技術の波及

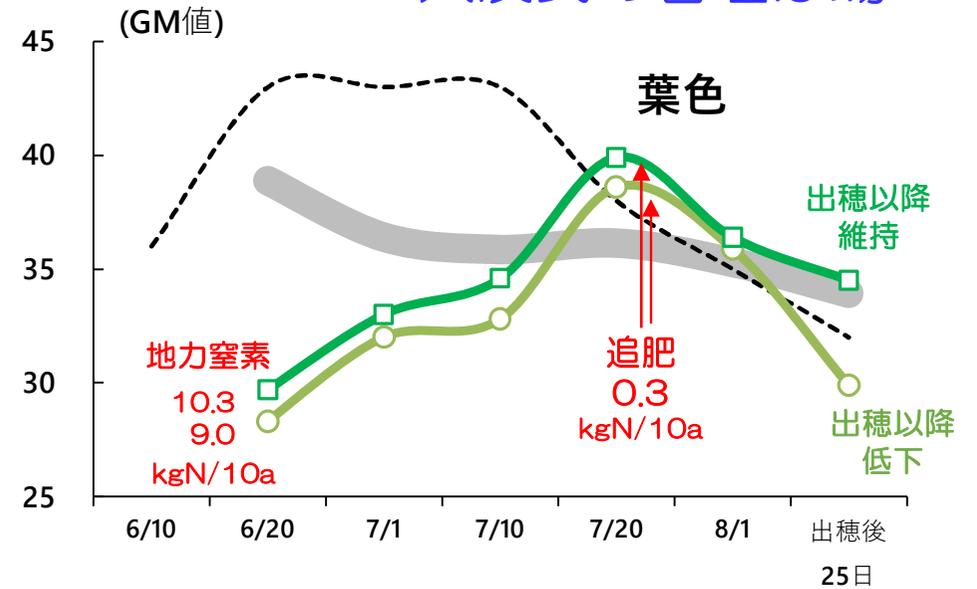
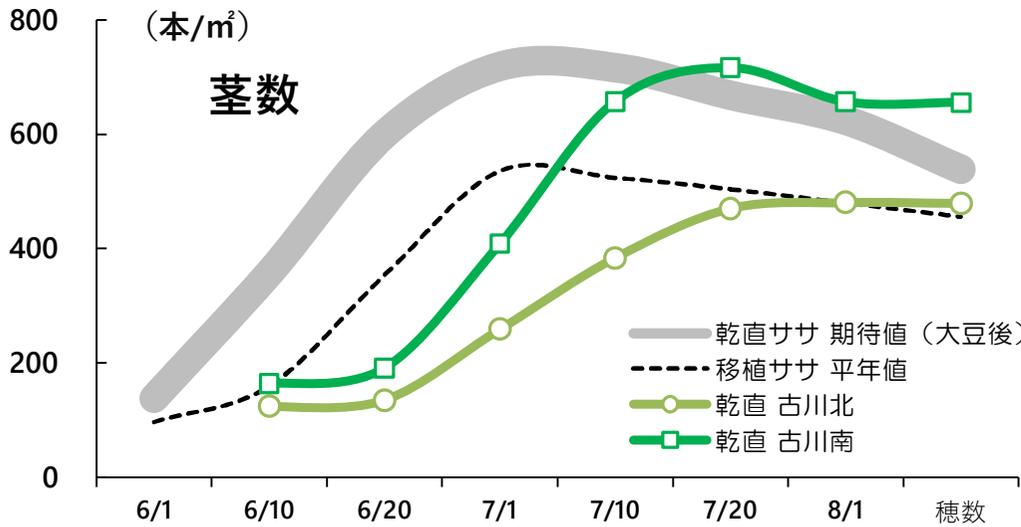
数値目標

大豆後水稻乾田直播（主食用米）の平均反収
R6：510kg → R7：525kg → R8：540kg

<活動内容1> 水稲乾田直播栽培の実証ほ運営と技術指導

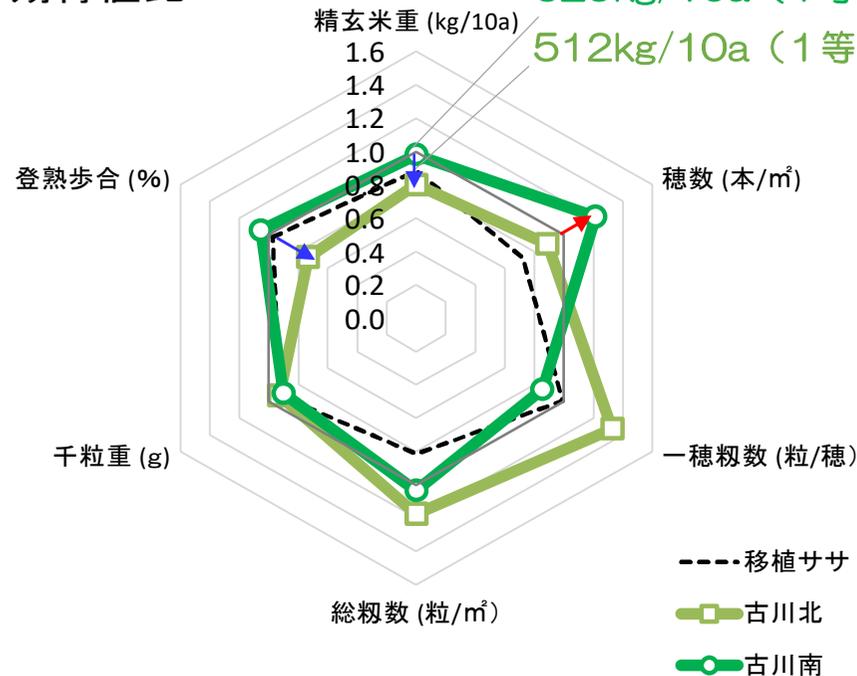
調査データに基づく栽培管理の判断

大友氏の管理ほ場



古川ササニシキ

期待値比



坪刈収量 (検査等級)

629kg/10a (1等)

512kg/10a (1等)

◎南ほ場は、穂数多く、出穂後葉色が維持されたため、登熟歩合高く、**収量は期待値並**。

△北ほ場では、穂数少なく、出穂後葉色も低下し、登熟歩合低く、**収量も低かった**。

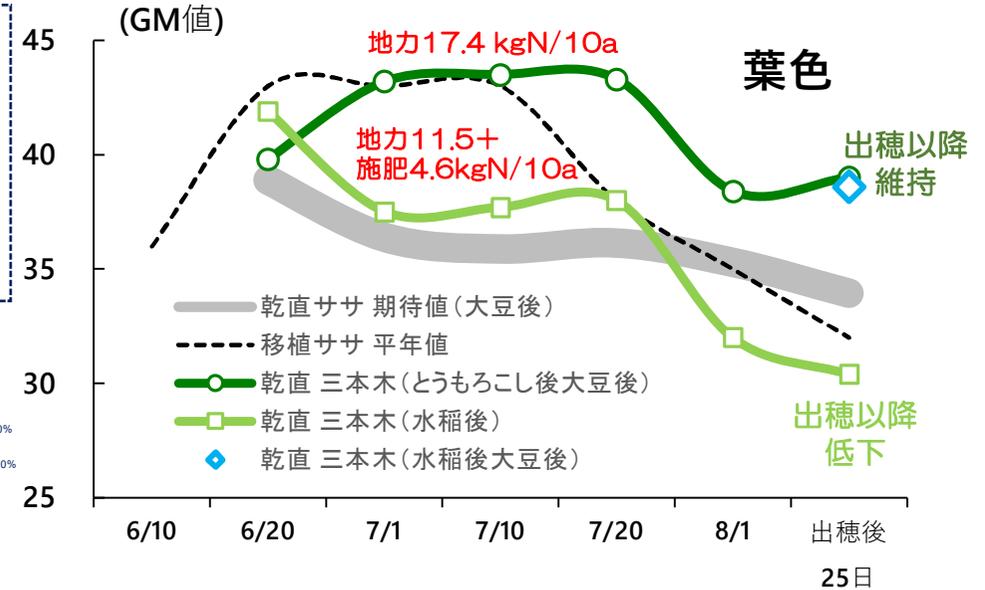
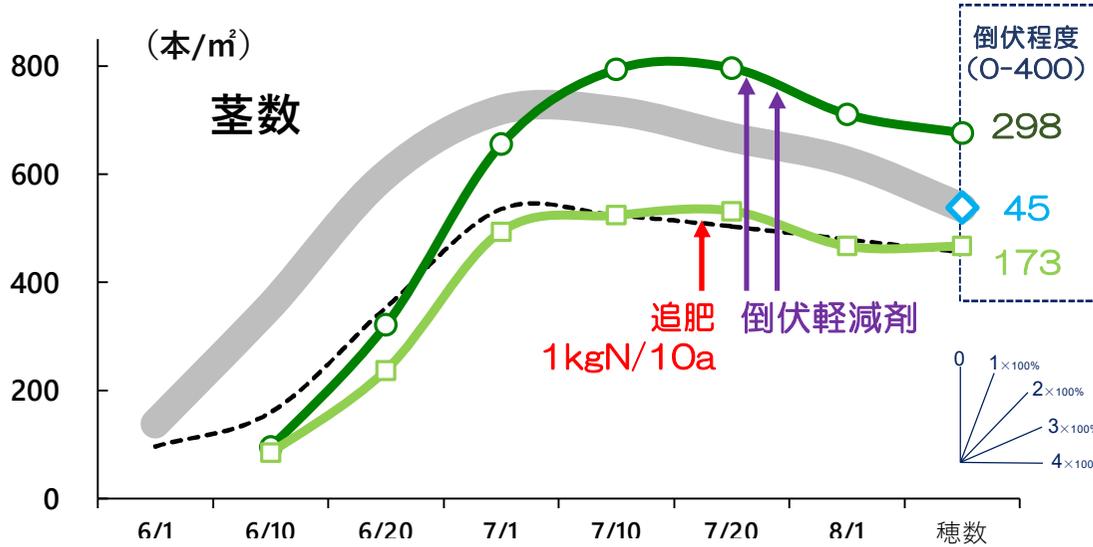
△両ほ場合合わせた全刈収量
7.2俵=432kg/10a (全量1等)

目標未達だが品質は高い

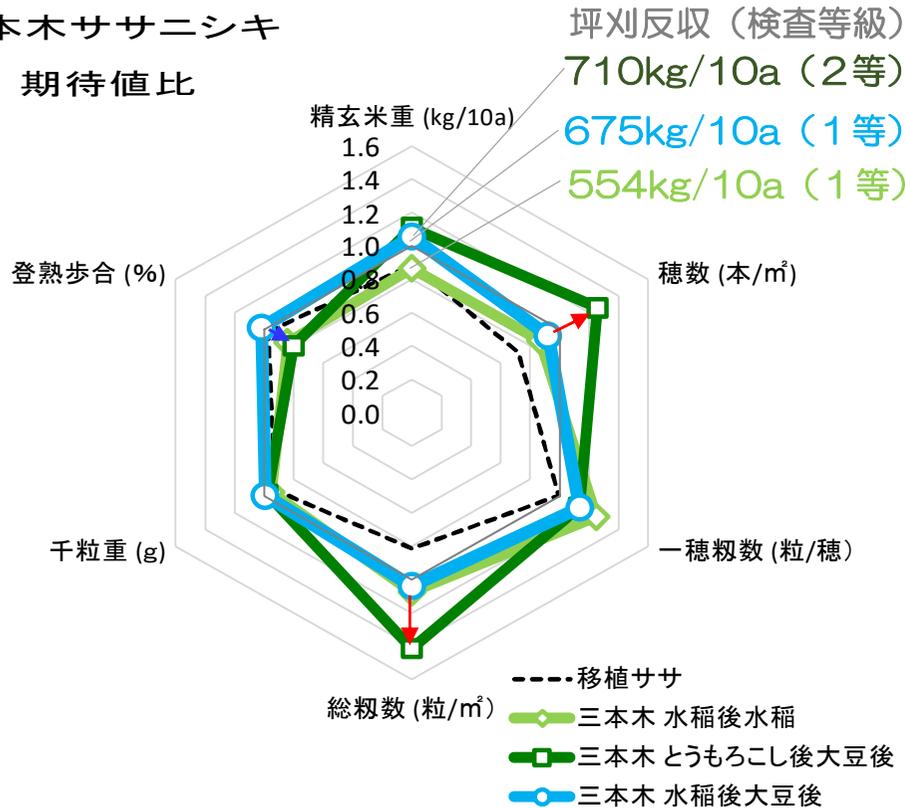
※ 乾直ササ期待値 (大豆後) はR4~6石巻管内調査事例 (泥炭土、収量 621~660kg/10a) における平均値 (以下同様)

調査データに基づく栽培管理の判断

渋谷氏の管理ほ場



三本木ササニシキ
期待値比



△大豆後ほ場 (前々作とうもろこし)

は、茎数増加早く生育過剰のため倒伏軽減剤散布も出穂後の降雨により成熟期前に倒伏。高収量も品質低下。

◎前々作水稻は期待値並の穂数で登熟期倒伏もなく、多収で高品質。

○水稻後ほ場は、茎数期待値より低く追肥実施。穂数少なく出穂後葉色が低下も移植並の収量は確保。

◎両ほ場合合わせた全刈収量

10俵=600kg/10a (全量1等)

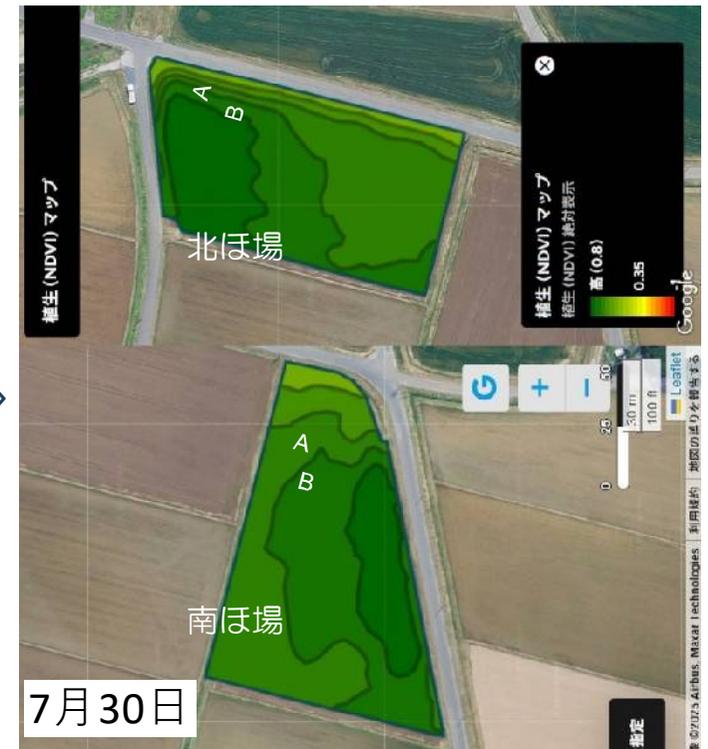
ほぼ目標達成!

衛星センシング・ドローン撮影によるほ場の生育ムラの可視化

<活動内容2> 営農管理システム の活用支援

大友氏 管理ほ場

ほ場内の地カムラ



土壌水分のムラ



DJI Mini2SE



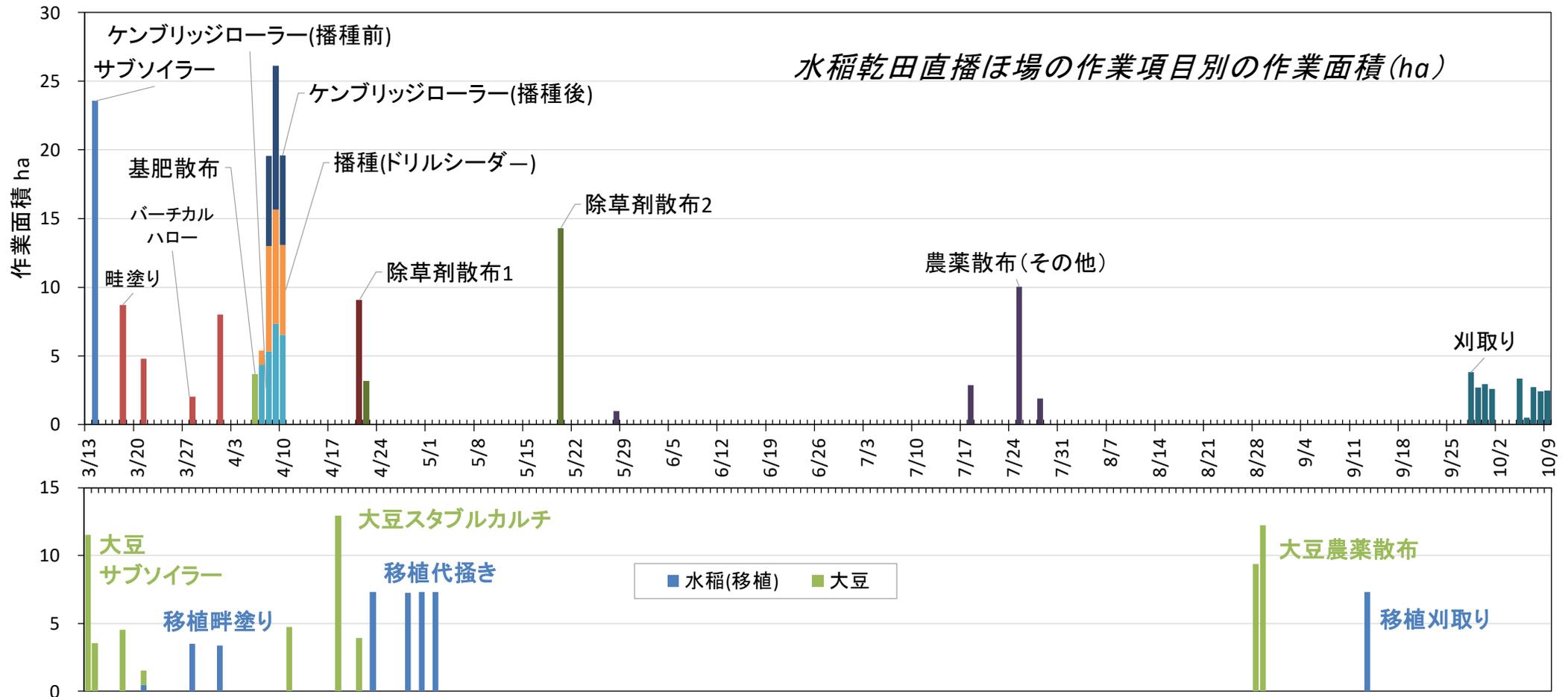
R7/7/31撮影



※番水により入水できる日が限られ、
入水しても、土壌が乾いており、
ほ場全体に水分が行きわたらない。

システム入力データによる作業ピークの可視化

水稻乾田直播の1日あたりの作業面積



- 3～4月初旬はほ場準備
- 4月5～10日の5日間に**碎土・鎮圧・播種・鎮圧の一連の作業を集中実施**
- 登熟と倒伏状況、乾燥・調製の進捗を見極めて刈取り作業（のべ8日間）

<活動内容3> 技術交流支援



8月27日 三本木GS展示ほ場での
現地検討会



1月15日大崎市農業セミナーでの
パネルディスカッション



1月20日色麻町乾田直播検討会での
展示ほ成績の紹介

支援対象の動き・波及効果

1 水稲乾田直播栽培の実証ほ運営と技術指導

調査データに基づく栽培指導

⇒ 生育ステージ毎の管理指標への理解を深めた。

2 営農管理システムの活用支援

栽培状況・管理作業の見える化

⇒ 両者とも各システムの操作性を体感できた。

⇒ ほ場内生育ムラ・作業ピークやボトルネックを把握できた。

3 技術交流支援

展示ほ調査に基づく情報発信、検討会・研修会での技術交流

⇒ 乾田直播を志向する担い手をもつ課題が共有された。

小規模ほ場への対応、機械導入に係る投資が高額 等

令和8年度の活動予定

1 水稻乾田直播栽培の実証ほを活用した技術指導と地域への波及

- ほ場観察・生育調査結果を基にした技術指導
- 検討会・研修会における地域内外の技術交流促進

2 営農管理システムの活用支援

- ほ場地図・作業日誌として利便性の説明
- ほ場履歴や作業記録の戦略的活用事例の紹介

(年度様式2) プロジェクト課題計画 (案)

課題No. 3			
課題名 若手農業者の経営発展に向けた水稲乾田直播栽培技術の定着 (「スマート農業」関連課題)			
計画期間		令和7年度～令和8年度	
対象名及び対象者数		大友氏 (東部師山生産組合)、渋谷氏 ((株)三本木グリーンサービス) (水稲乾田直播の導入・取組拡大を志向する担い手経営体)	
課題の背景		<ul style="list-style-type: none"> JA 古川管内では、大豆輪作体系の中での水稲乾田直播栽培への取組が拡大しており (R4:17ha→R5:36ha→R6:86ha)、特に20～40代の若手の取組が目立つ。 このうち、東部師山営農組合の大友氏は、肉牛の一貫経営を行いつつ、中心的オペレーターとして営農組合による子実とうもろこし→小麦→大豆→水稲乾田直播の水田輪作、移植水稲や牧草も含めたほ場作業を一手に担っている。乾田直播では除草管理を中心に肥培管理全般の技術向上が課題であるが、経営面では、部門間の競合が少ない作業計画や効率的労務管理の検討が必要である。 (株)三本木グリーンサービスの役員である渋谷氏は、法人代表の父を補佐しつつ同年代従業員3名と共に大豆・水稲作りに取組んでいる。現状では、大豆後作は耐倒伏性の高い品種の「萌えみのり」の乾田直播で対応しているが、主食用米として引き合いの強い「ササニシキ」を大豆後でも栽培できる生育管理技術の習得を目指している。また、将来を見据えながら、年間の各ほ場作業の勘所の理解をより深め、業務管理能力をさらに高めていく。 管内の乾田直播栽培の普及拡大に伴い、乾田直播の課題解決を目的とした技術実証ほを設置し、データに基づいた栽培管理の指導が行われることで、着実に技術が定着・向上することが望まれている。 対象者が経営体の中で求められている、労力配分の合理化やほ場管理業務の体系的理解のためには、営農管理システムを活用して、日常の各作業項目を質的・量的に見える化し、現況把握や分析に基づく判断能力を養うことが必要である。 実証ほ成績等技術情報の発信、現地検討会や研修会の開催支援を通じて地域内の技術交流を促すことで、対象者の習得した高い栽培技術や経営管理の手法を乾田直播導入・取組拡大を志向する担い手経営体に波及することが期待される。 <p>(前年度までの実施状況と今後の改善方向)</p> <p>【対象者共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> 実証ほを基にした技術支援により、乾田直播の栽培手法について理解を深めることができた。 各支援システムを実際に操作したことで、入力負担感や期待される活用場面を理解できた。 <p>【大友氏】</p> <ul style="list-style-type: none"> 播種日の遅れや生育ムラ、渇水の影響等があり、平均実収量は432kg/10aと目標に届かなかつた。今年度は、地カムラや水稲生育量に応じた肥培管理を支援し、目標収量の達成を目指す。 <p>【渋谷氏】</p> <ul style="list-style-type: none"> 畑転作が続いていた大豆後ほ場は倒伏し落等したが、ササニシキ乾直の平均実収量は600kg/10aと目標を達成した。営農管理システムKSASを導入し、作物毎の作業記録を入力・蓄積したことから、これらのデータを次年度以降の作業に活用することを目指す。また、KSASを活用し、効率的な作業の実現と乾田直播栽培技術の更なる向上(収量安定と全量1等)を目指す。 	
活動の概要		<ul style="list-style-type: none"> ほ場履歴や水稲生育の状況に応じた管理の実践支援による乾田直播栽培の収量の向上・安定化 営農管理システムの活用支援 	
計画完了時に期待される対象の変化		<ul style="list-style-type: none"> 水稲乾田直播栽培による主食用米の安定した生産が可能となる。 営農管理システムを活用し、部門間の労働配分の改善や体系的理解に基づく作業差配が可能となる。 	
担当チーム員		◎羽場、宮本、小池、大川、佐々木、門脇	進行管理責任者 大川茂範
令和8年度			
成果指標	<ul style="list-style-type: none"> 水稲乾田直播栽培による主食用米の安定した生産が可能となる。 営農管理システム活用し、部門間の労働配分の改善や体系的理解に基づく作業差配が可能となる。 		
	定量的数値目標 ・大豆後水稲乾田直播(主食用米)の平均反収 R6:510kg → R7:525kg → R8:540kg		
活動指標	定量的数値指標(合計総現地活動日数 66日)		
	活動事項 ・水稲乾田直播栽培の実証ほを活用した技術指導と地域への波及(46日) ・営農管理システムの活用支援(20日)		
関係機関の主な役割分担項目 JA古川、農研機構東北農研(技術指導)、宮城県古川農業試験場			
関連事業名と役割 なし			
県実施方針上の関連項目	1- (1) 先進的経営体や地域の核となる経営体の育成及び経営の安定化・高度化支援 1- (3) 先端技術等の推進・普及による農業経営の効率化・省力化支援		
地域基本方針上の関連項目			

(年度様式2) プロジェクト課題計画 (案)

課題No. 1	
課題名 古川なすの高品質安定生産技術の定着と部会活動の活性化 (「園芸振興」、「みどりの食料システム戦略」関連課題)	
計画期間	令和8年度～令和9年度
対象名及び対象者数	JA古川なす部会役員10人 (JA古川なす部会員29人)
課題の背景	<p>JA古川のなすは販売実績等で県内産の半数以上のシェアを占め、大崎市古川は「夏秋なす」で国の指定産地となっている。また、JA古川なす部会では、独自の厳しい出荷規格を設け、ブランド「古川なす」として品質管理の徹底と知名度向上に取り組んでおり、市場から高い評価を得ている。</p> <p>部会ではこれまで、天敵利用、土壌還元消毒、抵抗性台木の導入など、農薬だけに頼らない防除技術であるIPM技術(Integrated Pest Management: 総合的病害虫雑草管理技術)の実証に加え、単為結果性品種の導入による省力化に取り組んできた。単為結果性品種は、受粉昆虫が不要となることで使用可能な農薬の幅が広がることから、改めて防除体系の再構築が必要となっている。また、夏の高温など、気候変動による農作物への影響や病害虫の多発などへの対応も必要となっている。</p> <p>部会活動においては、コロナ禍以降生産者同士の交流の機会が減少したことで、部会員同士の技術の共有が十分に図られず、新たな技術の普及が停滞している。</p> <p>産地の持続的な発展を図るためには、部会員同士の技術交流により、気候変動対策技術や新たな防除技術の定着を図り、かつ、これらの技術交流活動が継続される体制の構築が必要である。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>過去のプロジェクト課題 課題名: 大崎園芸を牽引するなすの技術革新による生産性向上 (令和2～3年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 土壌病害対策の実践支援 ・ 環境データを踏まえた栽培管理の改善支援 </div>
活動の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高温など気候変動に伴う対策技術、病害虫防除等のIPM技術だどの栽培技術全般のアップデートを支援し、収量の向上と品質の安定化を図る。 ・ 現地巡回活動や情報ツールを使った部会員の情報共有を促進し、部会としての課題解決力と技術力の向上を図る。
計画完了時に期待される対象の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 気候変動対策技術や新たな病害虫防除技術が産地内に定着し、生産の安定化が図られる。 ・ 部会員同士の技術交流が活発化し、継続的に課題解決に取り組むための体制が構築される。
担当チーム員	◎本田、大和田、小池、尾上、小松、今野 進行管理責任者 大川茂範
令和8年度	
成果指標	<p>定性的目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 気候変動や病害虫に対応するための新たな対策技術への理解が深まる。 ・ 部会員同士の技術交流が活発化し、各生産者それぞれの課題解決に向けた取組が行われる。
	<p>定量的数値目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 部会員が新たに取組み、情報共有を行った技術数 R7 (0) → R8 (2) → R9 (4) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>想定する技術の事例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 防虫ネット展張、天敵資材 ・ 遮光・遮熱対策、換気・外気導入 </div>
活動指標	<p>定量的数値指標 (合計総現地活動日数 46日)</p>
	<p>活動事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 栽培技術アップデート支援 (18日) ・ 部会活動活性化支援 (28日) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>令和9年度 活動事項 (案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 技術定着支援 ・ 主体的部会活動の自走化支援 </div>
関係機関の主な役割分担項目 JA古川園芸課 (部会活動運営支援)、農業・園芸総合研究所 (技術支援)	
関連事業名と役割	
県実施方針上の関連項目	1 - (4) 環境に配慮した持続可能な農業生産の取組支援 1 - (5) 園芸産出額の増大に向けた園芸産地の育成・強化支援
地域基本方針上の関連項目	